須賀川市教育研修センターだより　第122号

「みち」

令和４年　５月１９日 発行

５月、学びの基盤！　子どもたちとの信頼関係を!!

新緑が美しい季節となりました。新学期が始まり一か月、子どもたちの様子はいかがでしょうか。子ども同士や担任と子どもたちの関係性も確立し、授業も軌道に乗り始めたころではないでしょうか。出口が見えないコロナ禍の中で授業参観や家庭訪問などそれぞれの学校の実情にあわせ実施にこぎつけているという話を耳にしています。様々な制約の中で、小学校での運動会、中学校での修学旅行や中体連・・・などに向けて、コロナ対策を練りながら子どもたちの指導にあたっている先生方の頑張りに感謝します。

子どもたちは、このゴールデンウィークをどのようにすごしたのでしょう。家族で思う存分楽しく過ごせた子がいる反面、一人で留守番をしていた子もいたのではないでしょうか。部活動に励んだ中学生や生徒とともに精を出し指導にあたった先生方もいらっしゃったことでしょう。様々な過ごし方をした子どもたちの様子をしっかりと観察し、「寄り添う」とはどういうことなのかをもう一度考えて、一人ひとりに寄り添いながら、言葉かけに努めることが大切です。表情や言動がこれまでの様子と違っていたら注意して見守り、必要な支援を講じていかなければいけません。

『一人ひとりに心の居場所のある安心して学べる学級づくり』を進め、子どもたちはもちろん、先生方もいきいきと毎日を過ごしていきたいものです。

温かな人間関係作りに努めよう

○子どもたちと一緒に笑いましょう。
- 心理学的にも笑いを共有することで集団としての意識と団結力がアップするといわれています。質の高い学級からは爽やかで明るい笑い声が聞こえてきます。

○人間関係づくりを意図的に進めましょう。
- Ｑ－Ｕ心理検査結果を活用しましょう。

○子ども一人ひとりが互いの良さを知り、認め合う時間を作りましょう。
- 構成的グループエンカウンターの考え方を取り入れます。

おもいやり算

ちょっと視点を変えて、教室や職員室で話題にしてみましょう。

「＋」・・・たし算
「－」・・・ひき算
「×」・・・かけ算
「÷」・・・わり算　　ですが

「＋」・・・助け合う

一人の力は小さくてもクラス全員、職員室全員の力が集まれば、大きくてしっかりした力になります。

「－」・・・引き受ける

しんどいことや面倒なことを引き受けるのは嫌なものですが、だからと言ってみんながみんなそっぽを向いてしまったらどうなるでしょう。誰かが気づいて行動することで笑顔が生まれ、助け合いが始まります。

「×」・・・声をかける。

挨拶はもちろんですが、「大丈夫だよ」「どんまい！」「いいね！」・・・相手の気持ちを考えて優しく声をかけることで互いに通じ合えるものがありますよね。

「÷」・・・分け合う

うれしいことはみんなで喜び合い、悲しいことは分かち合えば、喜びは２倍３倍に、悲しみは小さく小さくなります。心の持ち方次第なのです。

＜日本教育新聞 R4, 4, 4 参照＞

それぞれの思いを知り、お互いの距離感を縮め、心の安定と同僚性を培いながら、ほっこりした職員室を目指したいものです。それは、必ず、教室にも波及するはずです。

「笑顔で一年間をすごせるように」

～第１回市立学校長会議～

第１回校長会議が４月２７日に稲田公民館において行われました。

「今年度こそは〇〇を頑張ろう」「これからは〇〇に力を入れてみよう」等、新たな夢や希望を胸に抱いて学校生活をスタートした子どもたちがのびのびと毎日を過ごせるよう校長先生のリーダーシップのもとワンチームとなって取り組んでいきたいものです。

《　校長会議の中からいくつか　》

〇コロナ禍の中で子ども・教職員の命、健康安全を最優先に対応する。

・収束までの長い年月を覚悟した学校教育の在り方を考える。

・「感染リスクがある活動は基本的に中止」ではなく「地域の感染状況を踏まえ、可能な限りの感染防止策を講じながら子どもの健やかな学びを保障する。」へ。

・陽性判明者へのフォローと配慮を!!「人権教育」を重視し、相手の気持ちに寄り添い、差別や偏見を許さない学校の醸成を図る。

〇子どもの学ぶ権利を一人残らず保障し、子どもの学びと育ちに責任を持つ。

・授業と授業研究を第一優先にする。

・学校の使命、教職員の責任を自覚し、子どものすべてを引き受け、教職員にとっての生命（いのち）である日々の授業を「主体的・対話的で深い学び」とし、質の向上を図る。

・学び合う『場』と『関係』と『環境』を作る。

〇ICT 機器を積極的に活用する。

・プロジェクターや指導者用デジタル教科書、端末機器を効果的に活用する。

・「ICT 活用の手引き」を活用し、校内での研修を充実させる。

〇働き方改革を推進する。

・リーフレット「須賀川市の働き方改革２０２２」参照。全教職員の共通理解のもと推進する。

教育長は、「笑顔で一年間をすごせるように、そして、やってよかったと喜べる年度末へ」という言葉で挨拶を閉じました。学校の主役、子どもたちが過ごす教室にも、その子どもたちを育む先生方が過ごす教室、職員室にも笑顔があふれる学級・学校経営に努めていきたいものです。

全国や県は、増加傾向にあるにもかかわらず、須賀川市の不登校の児童・生徒の数は、横ばいであることが報告されましたが、それは、担任はもちろん全教職員の「学び合い、支え合う授業作り、学級作り」への取り組みの成果でもあります。子どもたちの「今」を見つめ、みんなで同じ方向に向かって、謙虚に、そして前向きに教育活動に打ち込んでいきましょう。

教育研修センターの積極的な活用を！

「もっと子どものためによい授業がしたい」と願っている経験年数の浅い先生方を対象にした「ジャンプアップ研修」と「特別支援ジャンプアップ研修」は、あわせ 41 名の先生方の応募があり、一人ひとりの先生方のニーズに応じて研修がスタートしました。＜ジャンプ!!＞にご期待ください。

＜須賀川市教育研修センターＴＥＬ（0248）72-7185・ＦＡＸ（0248）72-7186＞